

# 医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会の IF 記載要領 2013 に準拠して作成

## 胆汁排泄型持続性 AT<sub>1</sub> 受容体ブロッカー

日本薬局方 テルミサルタン錠  
 テルミサルタン錠 20mg 「ツルハラ」  
 テルミサルタン錠 40mg 「ツルハラ」  
 テルミサルタン錠 80mg 「ツルハラ」  
 Telmisartan Tablets 「TSURUHARA」

剤形	素錠			
製剤の規制区分	処方箋医薬品（注意－医師等の処方箋により使用すること）			
規格・含量	20mg：1錠中テルミサルタン 20mg 40mg：1錠中テルミサルタン 40mg 80mg：1錠中テルミサルタン 80mg			
一般名	和名：テルミサルタン 洋名：Telmisartan			
製造販売承認年月日 薬価基準収載・発売年月日		20mg	40mg	80mg
	製造販売承認年月日	2017年2月15日		
	薬価基準収載年月日	2017年6月16日		
	発売年月日	2017年6月16日		
開発・製造販売（輸入）・ 提携・販売会社名	製造販売元：鶴原製薬株式会社			
医薬情報担当者の連絡先				
問い合わせ窓口	鶴原製薬株式会社 医薬情報部 TEL:072-761-1456(代表) FAX:072-760-5252 医療関係者向けホームページ <a href="http://www.tsuruhara-seiyaku.co.jp/member/">http://www.tsuruhara-seiyaku.co.jp/member/</a>			

本 IF は 2017 年 6 月作成（第 1 版）の添付文書の記載に基づき作成した

最新の添付文書情報は、医薬品医療機器情報提供ホームページ

<http://www.pmda.go.jp/> にてご確認ください。

## IF 利用の手引きの概要 —日本病院薬剤師会—

### 1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書(以下、添付文書と略す)がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和 63 年に日本病院薬剤師会(以下、日病薬と略す)学術第2小委員会が「医薬品インタビューフォーム」(以下、IFと略す)の位置付け並びにIF記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成 10 年 9 月に日病薬学術第3小委員会においてIF記載要領の改訂が行われた。

更に 10 年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境が大きく変化したことを受けて、平成 20 年 9 月に日病薬医薬情報委員会においてIF記載要領 2008 が策定された。

IF記載要領 2008 では、IFを紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF等の電磁的データとして提供すること(e-IF)が原則となった。この変更にあわせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版のe-IFが提供されることとなった。

最新版のe-IFは、(独)医薬品医療機器総合機構の医薬品情報提供ホームページ(<http://www.pmda.go.jp/>)から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-IFを掲載する医薬品情報提供ホームページが公的サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせてe-IFの情報を検討する組織を設置して、個々のIFが添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008 年より年4回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、IF記載要領の一部改訂を行いIF記載要領 2013 として公表する運びとなった。

### 2. IFとは

IFは「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等はIFの記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供されたIFは、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

[IFの様式]

① 規格はA4版、横書きとし、原則として9ポイント以上の字体(図表は除く)で記載し、一色刷りとする。

ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。

②IF記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。

③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2頁にまとめる。

[IFの作成]

①IFは原則として製剤の投与経路別(内用剤、注射剤、外用剤)に作成される。

②IFに記載する項目及び配列は日病薬が策定したIF記載要領に準拠する。

③添付文書の内容を補完するとのIFの主旨に沿って必要な情報が記載される。

④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。

⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領 2013」(以下、「IF記載要領 2013」と略す)により作成されたIFは、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体(PDF)から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

[IFの発行]

①「IF記載要領 2013」は、平成25年10月以降に承認された新医薬品から適用となる。

②上記以外の医薬品については、「IF記載要領 2013」による作成・提供は強制されるものではない。

③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果(臨床再評価)が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合にはIFが改訂される。

### 3. IFの利用にあたって

「IF記載要領 2013」においては、PDFファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。

電子媒体のIFについては、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IFの原点を踏まえ、医療現場に不足している情報やIF作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IFの利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IFが改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IFの使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

### 4. 利用に際しての留意点

IFを薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IFは日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、IFがあくまでも添付文書を補完する情報資材であり、インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013年4月改訂)

# 目次

<b>I. 概要に関する項目</b> .....	1	2. 禁忌内容とその理由(原則禁忌を含む).....	15
1. 開発の経緯.....	1	3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由.....	15
2. 製品の治療学的・製剤学的特性.....	1	4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由.....	15
<b>II. 名称に関する項目</b> .....	2	5. 慎重投与内容とその理由.....	15
1. 販売名.....	2	6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法.....	16
2. 一般名.....	2	7. 相互作用.....	16
3. 構造式又は示性式.....	2	8. 副作用.....	17
4. 分子式及び分子量.....	2	9. 高齢者への投与.....	19
5. 化学名(命名法).....	3	10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与.....	19
6. 慣用名、別名、略号、記号番号.....	3	11. 小児等への投与.....	19
7. CAS登録番号.....	3	12. 臨床検査結果に及ぼす影響.....	20
<b>III. 有効成分に関する項目</b> .....	3	13. 過量投与.....	20
1. 物理化学的性質.....	4	14. 適用上の注意.....	20
2. 有効成分の各種条件下における安定性.....	4	15. その他の注意.....	20
3. 有効成分の確認試験法.....	4	16. その他.....	20
4. 有効成分の定量法.....	4	<b>IX. 非臨床試験に関する項目</b> .....	21
<b>IV. 製剤に関する項目</b> .....	5	1. 薬理試験.....	21
1. 剤形.....	5	2. 毒性試験.....	21
2. 製剤の組成.....	5	<b>X. 管理的事項に関する項目</b> .....	22
3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意.....	6	1. 規制区分.....	22
4. 製剤の各種条件下における安定性.....	6	2. 有効期間又は使用期限.....	22
5. 調製法及び溶解後の安定性.....	6	3. 貯法・保存条件.....	22
6. 他剤との配合変化(物理化学的变化).....	6	4. 薬剤取扱い上の注意点.....	22
7. 溶出性.....	7	5. 承認条件等.....	22
8. 生物学的試験法.....	9	6. 包装.....	22
9. 製剤中の有効成分の確認試験法.....	9	7. 容器の材質.....	22
10. 製剤中の有効成分の定量法.....	9	8. 同一成分・同効薬.....	22
11. 力価.....	9	9. 国際誕生年月日.....	23
12. 混入する可能性のある夾雑物.....	9	10. 製造販売承認年月日及び承認番号.....	23
13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報.....	9	11. 薬価基準収載年月日.....	23
14. その他.....	9	12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容.....	23
<b>V. 治療に関する項目</b> .....	10	13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容.....	23
1. 効能又は効果.....	10	14. 再審査期間.....	23
2. 用法及び用量.....	10	15. 投薬期間制限医薬品に関する情報.....	23
3. 臨床成績.....	10	16. 各種コード.....	23
<b>VI. 薬効薬理に関する項目</b> .....	11	17. 診療報酬上の注意.....	23
1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群.....	11	<b>X I. 文献</b> .....	24
2. 薬理作用.....	11	1. 引用文献.....	24
<b>VII. 薬物動態に関する項目</b> .....	12	2. その他の参考文献.....	24
1. 血中濃度の推移・測定法.....	12	<b>X II. 参考資料</b> .....	24
2. 薬物速度論的パラメータ.....	13	1. 主な外国での発売状況.....	24
3. 吸収.....	13	2. 海外における臨床支援情報.....	24
4. 分布.....	13	<b>X III. 備考</b> .....	24
5. 代謝.....	14	その他の関連資料.....	24
6. 排泄.....	14		
7. トランスポーターに関する情報.....	14		
8. 透析等による除去率.....	14		
<b>VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目</b> .....	14		
1. 警告内容とその理由.....	15		

## I. 概要に関する項目

### 1. 開発の経緯

テルミサルタン錠 20mg「ツルハラ」、テルミサルタン錠 40mg「ツルハラ」及びテルミサルタン錠 80mg「ツルハラ」は 2017 年 2 月 15 日に鶴原製薬株式会社が承認を取得、2017 年 6 月 16 日に上市した。

### 2. 製品の治療学的・製剤学的特性

アンジオテンシンⅡ受容体のサブタイプ AT<sub>1</sub> 受容体の拮抗薬、内因性昇圧物質のアンジオテンシンⅡに対して受容体レベルで競合的に拮抗することにより降圧作用をあらわす。なお、本薬の受容体親和性は高く、作用が持続的である<sup>1)</sup>。

## Ⅱ. 名称に関する項目

### 1. 販売名

(1)和名：

テルミサルタン錠 20mg 「ツルハラ」

テルミサルタン錠 40mg 「ツルハラ」

テルミサルタン錠 80mg 「ツルハラ」

(2)洋名：

Telmisartan Tablets20mg 「TSURUHARA」

Telmisartan Tablets40mg 「TSURUHARA」

Telmisartan Tablets80mg 「TSURUHARA」

(3)名称の由来

一般名＋剤形＋規格(含量)＋「ツルハラ」

〔「医療用後発医薬品の承認申請にあたっての販売名の命名に関する留意事項について」

(平成 17 年 9 月 22 日 薬食審査発第 0922001 号)に基づく〕

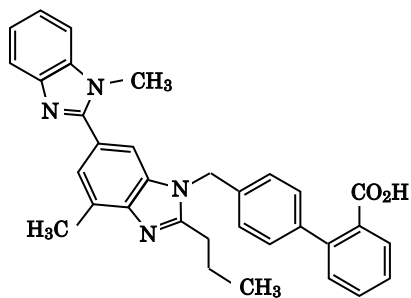
### 2. 一般名

(1)和名(命名法)：テルミサルタン

(2)洋名(命名法)：Telmisartan

(3)ステム：アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬：-sartan

### 3. 構造式又は示性式



### 4. 分子式及び分子量

分子式：C<sub>33</sub>H<sub>30</sub>N<sub>4</sub>O<sub>2</sub>

分子量：514.62

5. 化学名(命名法)

4'-{[4-Methyl-6-(1-methyl-1*H*-benzimidazol-2-yl)-2-propyl-1*H*-benzimidazol-1-yl]methyl}biphenyl-2-carboxylic acid

6. 慣用名、別名、略号、記号番号

特になし

7. CAS登録番号

144701-48-4

### Ⅲ. 有効成分に関する項目

#### 1. 物理化学的性質

- (1)外観・性状：白色～微黄色の結晶性の粉末である。本品は結晶多形が認められる。
- (2)溶解性：ギ酸に溶解やすく、メタノールに溶解にくく、エタノール(99.5)に極めて溶解にくく、水にほとんど溶解しない。
- (3)吸湿性：該当資料なし
- (4)融点(分解点)、沸点、凝固点：該当資料なし
- (5)酸塩基解離定数：該当資料なし
- (6)分配係数：該当資料なし
- (7)その他の主な示性値：該当資料なし

#### 2. 有効成分の各種条件下における安定性

該当資料なし

#### 3. 有効成分の確認試験法

日本薬局方の医薬品各条の「テルミサルタン」確認試験法による。

#### 4. 有効成分の定量法

日本薬局方の医薬品各条の「テルミサルタン」定量法による。



## IV. 製剤に関する項目










### 1. 剤形

(1) 剤形の区別、外観及び性状：

テルミサルタン錠 20mg 「ツルハラ」：白色～微黄色の素錠

テルミサルタン錠 40mg 「ツルハラ」：白色～微黄色の割線入り素錠

テルミサルタン錠 80mg 「ツルハラ」：白色～微黄色の割線入り素錠

20mg 錠				直径：約 6.0mm 厚さ：約 2.2mm 質量：約 75mg
40mg 錠				直径：約 7.5mm 厚さ：約 3.0mm 質量：約 150mg
80mg 錠				直径：約 9.0mm 厚さ：約 4.2mm 質量：約 300mg

(2) 製剤の物性：該当資料なし

(3) 識別コード：

テルミサルタン錠 20mg 「ツルハラ」：表面 TSU436、裏面 20

テルミサルタン錠 40mg 「ツルハラ」：表面 TSU437、裏面 40

テルミサルタン錠 80mg 「ツルハラ」：表面 TSU438、裏面 80

(4) pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨及び安定な pH 域等：該当資料なし

### 2. 製剤の組成

(1) 有効成分(活性成分)の含量：

テルミサルタン錠 20mg 「ツルハラ」：1 錠中テルミサルタン 20mg

テルミサルタン錠 40mg 「ツルハラ」：1 錠中テルミサルタン 40mg

テルミサルタン錠 80mg 「ツルハラ」：1 錠中テルミサルタン 80mg

(2) 添加物：

テルミサルタン錠 20mg 「ツルハラ」：軽質無水ケイ酸、D-マンニトール、水酸化ナトリウム、ポリソルベート 80、ヒプロメロース、ステアリン酸マグネシウム

テルミサルタン錠 40mg 「ツルハラ」：軽質無水ケイ酸、D-マンニトール、水酸化ナトリウム、ポリソルベート 80、ヒプロメロース、ステアリン酸マグネシウム

テルミサルタン錠 80mg 「ツルハラ」：軽質無水ケイ酸、D-マンニトール、水酸化ナトリウム、ポリソルベート 80、ヒプロメロース、ステアリン酸マグネシウム

(3) その他：該当資料なし

### 3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意

該当資料なし

### 4. 製剤の各種条件下における安定性

テルミサルタン錠 20mg 「ツルハラ」 加速試験

保存形態：PTP 包装 PTP シート+紙箱 / バラ包装 ポリエチレン製の容器+紙箱

保存条件：40°C75%RH 75±5% RH

保存期間：6 か月

試験項目：性状、確認試験、製剤均一性（含量均一性試験）、溶出性、定量法

結果：規格に適合

テルミサルタン錠 20mg 「ツルハラ」 は、通常の市場流通下において 3 年間安定であると推測された。<sup>2)</sup>

テルミサルタン錠 40mg 「ツルハラ」 加速試験

保存形態：PTP 包装 PTP シート+紙箱 / バラ包装 ポリエチレン製の容器+紙箱

保存条件：40°C75%RH 75±5% RH

保存期間：6 か月

試験項目：性状、確認試験、製剤均一性（含量均一性試験）、溶出性、定量法

結果：規格に適合

テルミサルタン錠 40mg 「ツルハラ」 は、通常の市場流通下において 3 年間安定であると推測された。<sup>2)</sup>

テルミサルタン錠 80mg 「ツルハラ」 加速試験

保存形態：PTP 包装 PTP シート+紙箱

保存条件：40°C75%RH 75±5% RH

保存期間：6 か月

試験項目：性状、確認試験、製剤均一性（含量均一性試験）、溶出性、定量法

結果：規格に適合

テルミサルタン錠 80mg 「ツルハラ」 は、通常の市場流通下において 3 年間安定であると推測された。<sup>2)</sup>

### 5. 調製法及び溶解後の安定性

該当資料なし

### 6. 他剤との配合変化(物理化学的变化)

該当資料なし

## 7. 溶出性

テルミサルタン錠 20mg「ツルハラ」テルミサルタン錠 40mg「ツルハラ」及びテルミサルタン錠 80mg「ツルハラ」の溶出は、日本薬局方医薬品各条に定められたテルミサルタン錠の溶出規格に適合していることが確認されている。<sup>3)</sup>

溶出規格

試験液：第2液 (pH6.8)

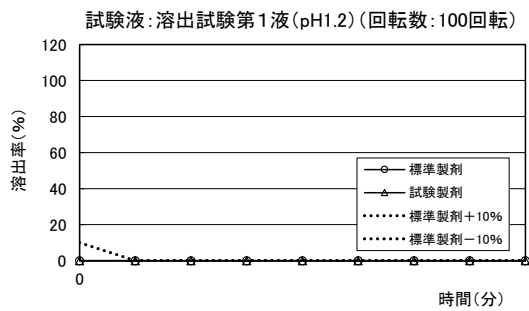
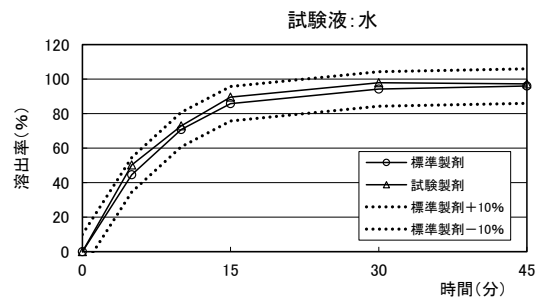
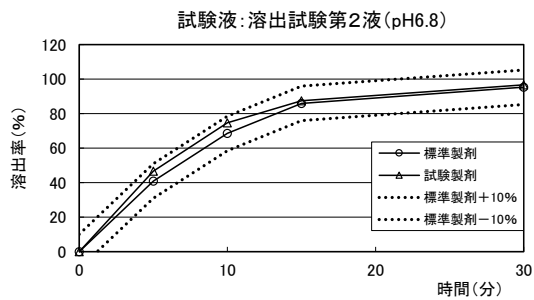
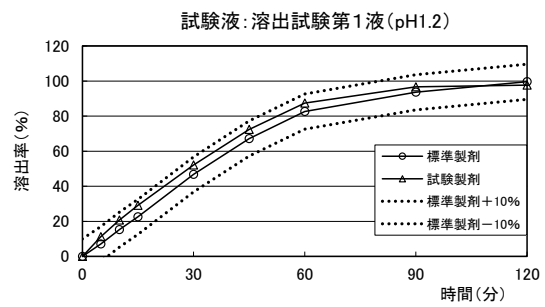
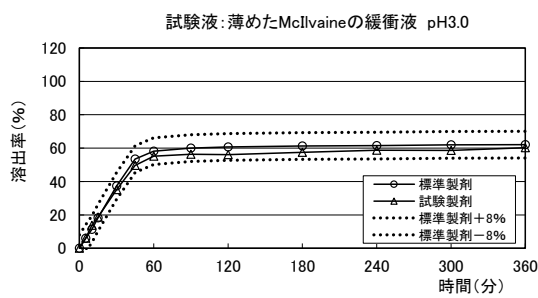
回転数：50rpm

時間：30分

溶出率：85%以上

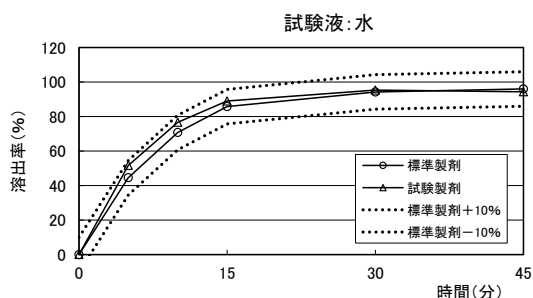
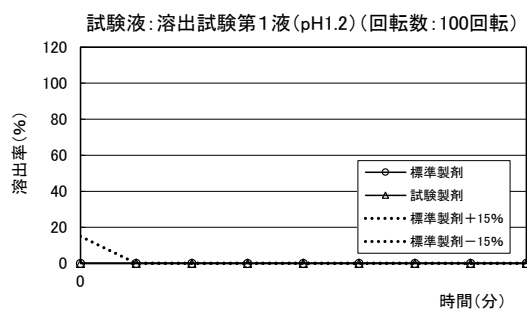
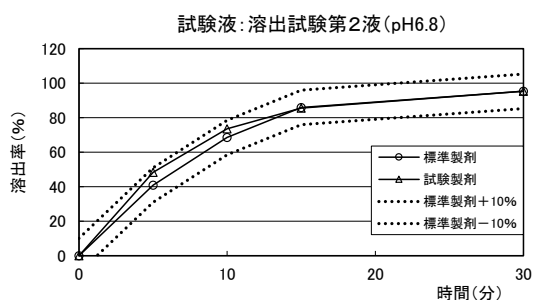
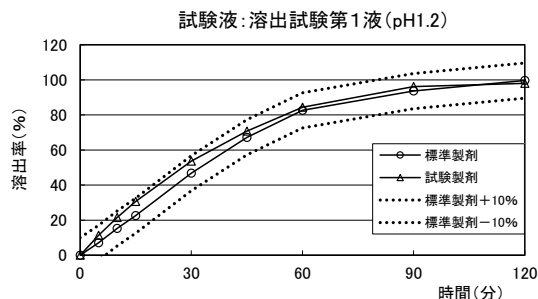
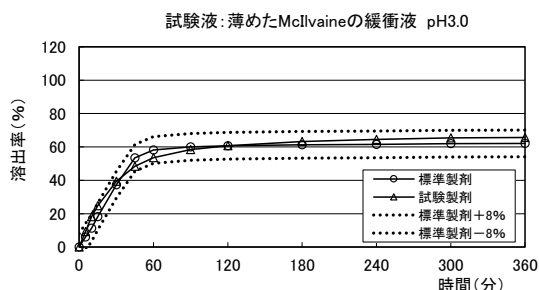
テルミサルタン錠 20mg「ツルハラ」につき、標準製剤を対照として、下記に示す試験液を用いて溶出試験を実施した。<sup>3)</sup>

溶出パターンは、標準製剤と同等であった。



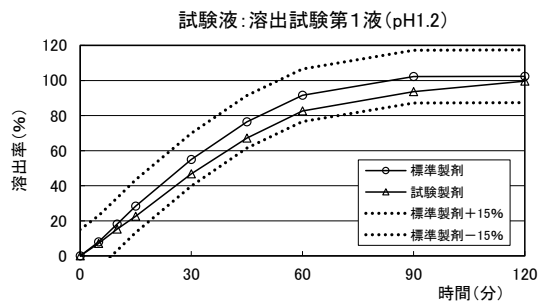
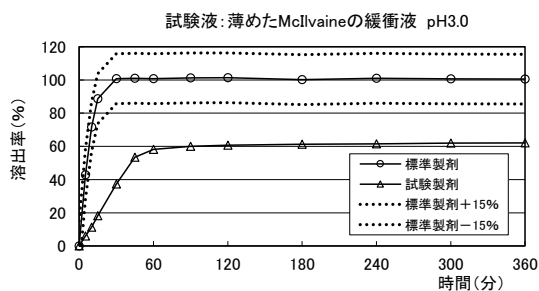
テルミサルタン錠 40mg「ツルハラ」につき、標準製剤を対照として、下記に示す試験液を用いて溶出試験を実施した。<sup>3)</sup>

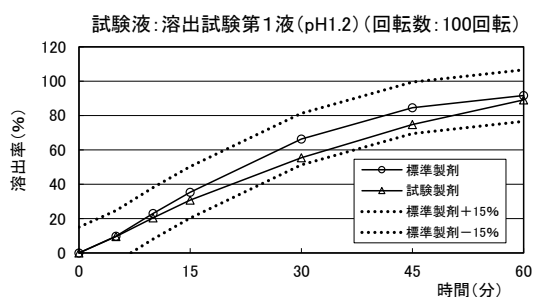
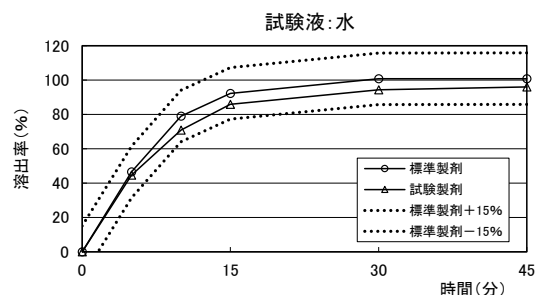
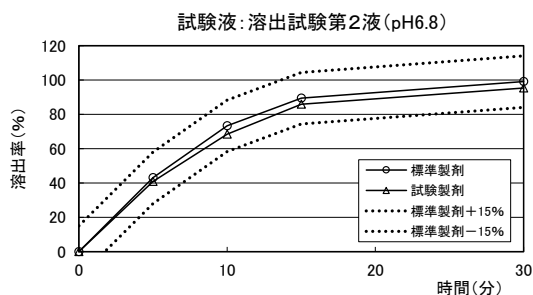
溶出パターンは、標準製剤と同等であった。



テルミサルタン錠 80mg「ツルハラ」につき、標準製剤を対照として、下記に示す試験液を用いて溶出試験を実施した。<sup>3)</sup>

溶出パターンは、下記の通りであった。





## 8. 生物学的試験法

該当資料なし

## 9. 製剤中の有効成分の確認試験法

日本薬局方テルミサルタン錠の確認試験による  
紫外可視吸光度測定法

## 10. 製剤中の有効成分の定量法

日本薬局方テルミサルタン錠の定量法による  
液体クロマトグラフィー

## 11. 力価

該当しない

## 12. 混入する可能性のある夾雑物

該当資料なし

## 13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報

該当資料なし

## 14. その他

該当しない

## V. 治療に関する項目

### 1. 効能又は効果

高血圧症

### 2. 用法及び用量

通常、成人にはテルミサルタンとして 40mg を 1 日 1 回経口投与する。ただし、1 日 20mg から投与を開始し漸次増量する。

なお、年齢・症状により適宜増減するが、1 日最大投与量は 80mg までとする。

《用法・用量に関連する使用上の注意》

肝障害のある患者に投与する場合、最大投与量は 1 日 1 回 40mg とする。〔「慎重投与」の項参照〕

### 3. 臨床成績

#### (1)臨床データパッケージ

該当資料なし

#### (2)臨床効果

該当資料なし

#### (3)臨床薬理試験

該当資料なし

#### (4)探索的試験

該当資料なし

#### (5)検証的試験

##### 1)無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

##### 2)比較試験

該当資料なし

##### 3)安全性試験

該当資料なし

##### 4)患者・病態別試験

該当資料なし

#### (6)治療的使用

##### 1)使用成績調査・特定使用成績調査(特別調査)・製造販売後臨床試験(市販後臨床試験)

該当資料なし

##### 2)承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

該当しない

## VI. 薬効薬理に関する項目

### 1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬：

ロサルタンカリウム、カンデサルタンシレキセチル、バルサルタン、オルメサルタンメドキシミル

アンジオテンシン変換酵素阻害薬：

エナラプリルマレイン酸塩等

### 2. 薬理作用

(1)作用部位・作用機序

アンジオテンシンⅡ受容体のサブタイプ AT<sub>1</sub> 受容体の拮抗薬、内因性昇圧物質のアンジオテンシンⅡに対して受容体レベルで競合的に拮抗することにより降圧作用をあらわす。なお、本薬の受容体親和性は高く、作用が持続的である<sup>1)</sup>。

(2)薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

(3)作用発現時間・持続時間

該当資料なし

## VII. 薬物動態に関する項目

### 1. 血中濃度の推移・測定法

#### (1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

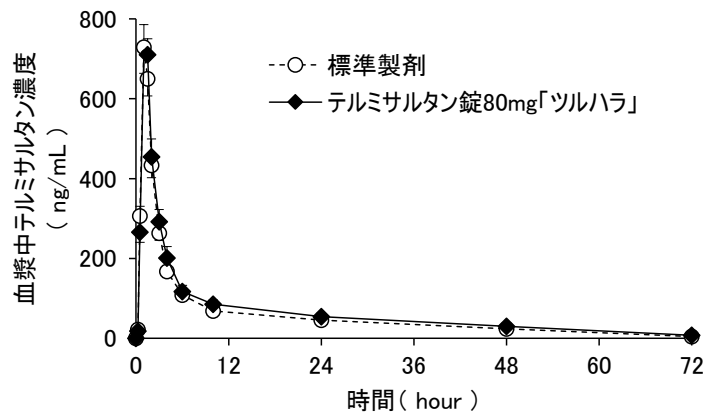
#### (2) 最高血中濃度到達時間

(「臨床試験で確認された血中濃度」の項参照)

#### (3) 臨床試験で確認された血中濃度

テルミサルタン錠 80mg 「ツルハラ」と標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ1錠 (テルミサルタンとして 80mg) を健康成人男子に絶食時単回経口投与して血漿中未変化体濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ (AUC、Cmax) について 90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.8) \sim \log(1.25)$  の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。<sup>4)</sup>

また、テルミサルタン錠 20mg 「ツルハラ」 2)、テルミサルタン錠 40mg 「ツルハラ」 3) は、「含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン (平成 24 年 2 月 29 日薬食審査発 0229 第 10 号)」に基づき、テルミサルタン錠 80mg 「ツルハラ」を標準製剤としたとき、溶出挙動が等しく、生物学的に同等とみなされた。<sup>3)</sup>



	AUC <sub>0-72</sub> (ng · hr/mL)	Cmax (ng/mL)	tmax (hr)	t <sub>1/2</sub> (hr)
テルミサルタン錠 80mg 「ツルハラ」	4724±630	921±46	1.2±0.1	36.3±10.6
標準製剤 (錠剤、80mg)	4094±496	872±51	1.2±0.1	32.6±5.7

mean±S.E. (n=24)

血漿中濃度並びに AUC、Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。



#### (4)中毒域

該当資料なし

#### (5)食事・併用薬の影響

本剤を食後に服用している患者には、毎日食後に服用するよう注意を与えること。

[テルミサルタン製剤の薬物動態は食事の影響を受け、空腹時投与した場合は、食後投与よりも血中濃度が高くなることが報告されており、副作用が発現するおそれがある。]

#### (6)母集団(ポピュレーション)解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当資料なし

### 2. 薬物速度論的パラメータ

#### (1)解析方法

該当資料なし

#### (2)吸収速度定数

該当資料なし

#### (3)バイオアベイラビリティ

該当資料なし

#### (4)消失速度定数

該当資料なし

#### (5)クリアランス

該当資料なし

#### (6)分布容積

該当資料なし

#### (7)血漿蛋白結合率

該当資料なし

### 3. 吸収

該当資料なし

### 4. 分布

#### (1)血液-脳関門通過性

該当資料なし

#### (2)血液-胎盤関門通過性

該当資料なし

### (3)乳汁への移行性

動物実験（ラット）で乳汁中へ移行することが報告されている。また、動物実験（ラット出生前、出生後の発生及び母動物の機能に関する試験）の 15mg/kg/日以上 の投与群で出生児の 4日生存率の低下、50mg/kg/日投与群で出生児の低体重及び身体発達の遅延が報告されている。

### (4)髄液への移行性

該当資料なし

### (5)その他の組織への移行性

該当資料なし

## 5. 代謝

### (1)代謝部位及び代謝経路

該当資料なし

### (2)代謝に関与する酵素(CYP450 等)の分子種

本剤は、主として UGT 酵素（UDP-グルクロノシルトランスフェラーゼ）によるグルクロン酸抱合によって代謝される。また、本剤は薬物代謝酵素 P450 では代謝されない。

### (3)初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

### (4)代謝物の活性の有無及び比率

該当資料なし

### (5)活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

## 6. 排泄

### (1)排泄部位及び経路

該当資料なし

### (2)排泄率

該当資料なし

### (3)排泄速度

該当資料なし

## 7. トランスポーターに関する情報

該当資料なし

## 8. 透析等による除去率

血液透析によって除去されない。

## VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目

### 1. 警告内容とその理由

該当しない

### 2. 禁忌内容とその理由(原則禁忌を含む)

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

- (1) 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
- (2) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人〔「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照〕
- (3) 胆汁の分泌が極めて悪い患者又は重篤な肝障害のある患者〔「慎重投与」の項参照〕
- (4) アリスキレンフマル酸塩を投与中の糖尿病患者（ただし、他の降圧治療を行ってもなお血圧のコントロールが著しく不良の患者を除く）〔非致死性脳卒中、腎機能障害、高カリウム血症及び低血圧のリスク増加が報告されている。（「重要な基本的注意」の項参照）〕

### 3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

### 4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

≪用法・用量に関連する使用上の注意≫

肝障害のある患者に投与する場合、最大投与量は1日1回40mgとする。〔「慎重投与」の項参照〕

### 5. 慎重投与内容とその理由

慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

- 1) 両側性腎動脈狭窄のある患者又は片腎で腎動脈狭窄のある患者（「重要な基本的注意」の項参照）
- 2) 高カリウム血症の患者（「重要な基本的注意」の項参照）
- 3) 肝障害のある患者〔本剤は主に胆汁中に排泄されるため、テルミサルタンのクリアランスが低下することがある。また、外国において肝障害患者で本剤の血中濃度が約3～4.5倍上昇することが報告されている。〕
- 4) 重篤な腎障害のある患者〔腎機能を悪化させるおそれがあるため、血清クレアチニン値が3.0mg/dL以上の場合には、慎重に投与すること。〕
- 5) 脳血管障害のある患者〔過度の降圧が脳血流不全を引き起こし、病態を悪化させるおそれがある。〕
- 6) 高齢者（「高齢者への投与」の項参照）

## 6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

- 1) 両側性腎動脈狭窄のある患者又は片腎で腎動脈狭窄のある患者においては、腎血流量の減少や糸球体濾過圧の低下により急速に腎機能を悪化させるおそれがあるので、治療上やむを得ないと判断される場合を除き、投与は避けること。
- 2) 高カリウム血症の患者においては、高カリウム血症を増悪させるおそれがあるので、治療上やむを得ないと判断される場合を除き、投与は避けること。  
また、腎機能障害、コントロール不良の糖尿病等により血清カリウム値が高くなりやすい患者では、高カリウム血症が発現するおそれがあるので、血清カリウム値に注意すること。
- 3) アリスキレンフマル酸塩を併用する場合、腎機能障害、高カリウム血症及び低血圧を起こすおそれがあるため、患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。なお、eGFRが60mL/min/1.73m<sup>2</sup>未満の腎機能障害のある患者へのアリスキレンフマル酸塩との併用については、治療上やむを得ないと判断される場合を除き避けること。
- 4) 本剤の投与によって、急激な血圧低下を起こすおそれがあるので、特に次の患者に投与する場合は患者の状態を十分に観察すること。また、増量する場合は徐々に行うこと。
  1. 血液透析中の患者
  2. 利尿降圧剤投与中の患者
  3. 嚴重な減塩療法中の患者
- 5) 降圧作用に基づくめまい、ふらつきがあらわれることがあるので、高所作業、自動車の運転等危険を伴う機械を操作する際には注意させること。
- 6) 手術前 24 時間は投与しないことが望ましい。
- 7) 本剤を含むアンジオテンシン II 受容体拮抗剤投与中に肝炎等の重篤な肝障害があらわれたとの報告がある。肝機能検査を実施するなど、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

## 7. 相互作用

本剤は、主として UGT 酵素（UDP-グルクロノシルトランスフェラーゼ）によるグルクロン酸抱合によって代謝される。また、本剤は薬物代謝酵素 P450 では代謝されない。

### (1)併用禁忌とその理由

該当しない

### (2)併用注意とその理由

#### 併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
ジゴキシン	併用により血中ジゴキシン濃度が上昇したとの報告があるので、血中ジゴキシン濃度に注意すること。	機序不明

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
カリウム保持性利尿剤 スピロノラクトン トリウムテレン 等 カリウム補給製剤	血清カリウム値が上昇することがあるので注意する。	併用によりカリウム貯留作用が増強するおそれがある。 危険因子：特に腎機能障害のある患者
リチウム製剤 炭酸リチウム	アンジオテンシン変換酵素阻害剤との併用により、リチウム中毒を起こすことが報告されているので、血中リチウム濃度に注意すること。	明確な機序は不明であるが、ナトリウムイオン不足はリチウムイオンの貯留を促進するといわれているため、本剤がナトリウム排泄を促進することにより起こると考えられる。
非ステロイド性消炎鎮痛剤 (NSAIDs) COX-2 選択的阻害剤	糸球体ろ過量がより減少し、腎障害のある患者では急性腎不全を引き起こす可能性がある。 降圧薬の効果を減弱させることが報告されている。	プロスタグランジン合成阻害作用により、腎血流量が低下するためと考えられる。 血管拡張作用を有するプロスタグランジンの合成が阻害されるため、降圧薬の血圧低下作用を減弱させると考えられている。
アンジオテンシン変換酵素阻害剤	急性腎不全を含む腎機能障害、高カリウム血症及び低血圧を起こすおそれがあるため、腎機能、血清カリウム値及び血圧を十分に観察すること。	併用によりレニン-アンジオテンシン系阻害作用が増強される可能性がある。
アリスキレンフマル酸塩	腎機能障害、高カリウム血症及び低血圧を起こすおそれがあるため、腎機能、血清カリウム値及び血圧を十分に観察すること。なお、eGFRが60mL/min/1.73m <sup>2</sup> 未満の腎機能障害のある患者へのアリスキレンフマル酸塩との併用については、治療上やむを得ないと判断される場合を除き避けること。	併用によりレニン-アンジオテンシン系阻害作用が増強される可能性がある。

## 8. 副作用

### (1)副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

### (2)重大な副作用と初期症状

#### 重大な副作用（頻度不明）

次のような副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

1. 血管浮腫：顔面、口唇、咽頭・喉頭、舌の腫脹を症状とする血管浮腫があらわれ、喉頭浮腫等により呼吸困難を来した症例も報告されているので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。
2. 高カリウム血症：重篤な高カリウム血症があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、直ちに適切な処置を行うこと。

3. 腎機能障害：急性腎不全を呈した例が報告されているので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。
4. ショック、失神、意識消失：ショック、血圧低下に伴う失神、意識消失があらわれることがあるので、観察を十分に行い、冷感、嘔吐、意識消失等があらわれた場合には、直ちに適切な処置を行うこと。特に血液透析中、嚴重な減塩療法中、利尿降圧剤投与中の患者では低用量から投与を開始し、増量する場合は患者の状態を十分に観察しながら徐々に行うこと。
5. 肝機能障害、黄疸：AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、LDH の上昇等の肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。
6. 低血糖：低血糖があらわれることがある（糖尿病治療中の患者であらわれやすい）ので、観察を十分に行い、脱力感、空腹感、冷汗、手の震え、集中力低下、痙攣、意識障害等があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
7. アナフィラキシー：呼吸困難、血圧低下、喉頭浮腫等が症状としてあらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。
8. 間質性肺炎：発熱、咳嗽、呼吸困難、胸部 X 線異常等を伴う間質性肺炎があらわれることがあるので、このような場合には投与を中止し、副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。
9. 横紋筋融解症：筋肉痛、脱力感、CK (CPK) 上昇、血中及び尿中ミオグロビン上昇を特徴とする横紋筋融解症があらわれることがあるので、観察を十分に行い、このような場合には直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。

### (3)その他の副作用

	頻度不明
過敏症 <sup>注1)</sup>	癢痒、発疹、蕁麻疹、紅斑
精神神経系	めまい <sup>注2)</sup> 、不安感、頭痛、眠気、頭のぼんやり感、不眠、抑うつ状態
血液	白血球減少、血小板減少、ヘモグロビン減少、貧血、好酸球上昇
循環器	低血圧、ほてり、心悸亢進、ふらつき、上室性期外収縮、心房細動、上室性頻脈、起立性低血圧、徐脈
消化器	腹痛、下痢、嘔気、食欲不振、消化不良、胃炎、口渇、口内炎、鼓腸、嘔吐
肝臓	AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、LDH 上昇等の肝機能異常
呼吸器	咳、喀痰増加、咽頭炎
腎臓	血清クレアチニン上昇、血中尿酸値上昇
骨格筋	関節痛、背部痛、下肢痙攣、下肢痛、筋肉痛、腱炎
電解質	血清カリウム上昇

	頻 度 不 明
その他	耳鳴、倦怠感、CRP 陽性、CK(CPK)上昇、浮腫、脱力感、発熱、頻尿、結膜炎、目のチカチカ感、羞明、視覚異常、多汗、胸痛、尿路感染、膀胱炎、敗血症、しびれ、味覚異常、上気道感染、インフルエンザ様症状

注1) このような症状があらわれた場合には、投与を中止すること。  
注2) このような症状があらわれた場合には、減量、休薬するなど適切な処置を行うこと。

(4)項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

(5)基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

(6)薬物アレルギーに対する注意及び試験法

該当資料なし

## 9. 高齢者への投与

- 1) 高齢者に投与する場合には、患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。〔一般に過度の降圧は好ましくないとされている。(脳梗塞等が起こるおそれがある。)]
- 2) 国内臨床試験では 65 歳未満の非高齢者と 65 歳以上の高齢者において本剤の降圧効果及び副作用に差はみられなかった。
- 3) 高齢者と非高齢者との間で AUC 及び Cmax に差はみられなかった。

## 10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

- 1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないこと。また、投与中に妊娠が判明した場合には、直ちに投与を中止すること。〔妊娠中に本剤を含むアンジオテンシン II 受容体拮抗剤を投与された高血圧症の患者で羊水過少症、胎児・新生児の死亡、新生児の低血圧、腎不全、高カリウム血症、頭蓋の形成不全及び羊水過少症によると推測される四肢の拘縮、頭蓋顔面の奇形、肺の発育不全等があらわれたとの報告がある。〕
- 2) 授乳中の婦人への投与を避け、やむを得ず投与する場合には授乳を中止させること。〔動物実験(ラット)で乳汁中へ移行することが報告されている。また、動物実験(ラット)出生前、出生後の発生及び母動物の機能に関する試験)の 15mg/kg/日以上投与群で出生児の4日生存率の低下、50mg/kg/日投与群で出生児の低体重及び身体発達の遅延が報告されている。〕

## 11. 小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない。〔使用経験がない〕

## 12. 臨床検査結果に及ぼす影響

該当しない

## 13. 過量投与

- 1) 症状: 本剤の過量服用 (640mg) により、低血圧及び頻脈があらわれたとの報告がある。  
また、めまいがあらわれるおそれがある。
- 2) 処置: 過量服用の場合は、次のような処置を行うこと。なお、本剤は血液透析によって除去されない。
  1. 胃洗浄、及び活性炭投与
  2. 生理食塩液等の静脈内投与

## 14. 適用上の注意

- 1) 薬剤交付時: PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。  
(PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている)
- 2) 服用時: 本剤を食後に服用している患者には、毎日食後に服用するよう注意を与えること。[本剤の薬物動態は食事の影響を受け、空腹時投与した場合は、食後投与よりも血中濃度が高くなることが報告されており、副作用が発現するおそれがある。]

## 15. その他の注意

該当資料なし

## 16. その他

該当資料なし



## IX. 非臨床試験に関する項目

### 1. 薬理試験

(1)薬効薬理試験(「VI.薬効薬理に関する項目」参照)

該当資料なし

(2)副次的薬理試験

該当資料なし

(3)安全性薬理試験

該当資料なし

(4)その他の薬理試験

該当資料なし

### 2. 毒性試験

(1)単回投与毒性試験

該当資料なし

(2)反復投与毒性試験

該当資料なし

(3)生殖発生毒性試験

該当資料なし

(4)その他の特殊毒性

該当資料なし

## X. 管理的事項に関する項目

### 1. 規制区分

製剤：処方箋医薬品（注意－医師等の処方箋により使用すること）

有効成分：処方箋医薬品（注意－医師等の処方箋により使用すること）

### 2. 有効期間又は使用期限

使用期限：3年（安定性試験に基づく）

### 3. 貯法・保存条件

室温保存

### 4. 薬剤取扱い上の注意点

(1) 薬局での取り扱い上の留意点について

分包後は吸湿して軟化、黄変することがあるので、高温・多湿を避けて保存すること。

(2) 薬剤交付時の取扱いについて(患者等に留意すべき必須事項等)

（「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目 14. 適用上の注意」の項を参照のこと）

(3) 調剤時の留意点について

### 5. 承認条件等

なし

### 6. 包装

20mg：(PTP) 100錠

40mg：(PTP) 100錠

80mg：(PTP) 100錠

### 7. 容器の材質

PTP包装：ポリ塩化ビニルフィルムシート／アルミニウム箔

外箱：紙

### 8. 同一成分・同効薬

同一成分薬：ミカルディス錠 20mg/錠 40mg/錠 80mg

同効薬：ロサルタンカリウム、カンデサルタン シレキセチル、バルサルタン

9. 国際誕生年月日

1998年11月10日

10. 製造販売承認年月日及び承認番号

製品名	製造販売承認年月日	承認番号
テルミサルタン錠 20mg 「ツルハラ」	2017年2月15日	22900AMX00327000
テルミサルタン錠 40mg 「ツルハラ」	2017年2月15日	22900AMX00328000
テルミサルタン錠 80mg 「ツルハラ」	2017年2月15日	22900AMX00329000

11. 薬価基準収載年月日

製品名	薬価基準収載年月日
テルミサルタン錠 20mg 「ツルハラ」 テルミサルタン錠 40mg 「ツルハラ」 テルミサルタン錠 80mg 「ツルハラ」	2017年6月16日

12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容

該当しない

13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容

該当しない

14. 再審査期間

該当しない

15. 投薬期間制限医薬品に関する情報

本剤は、投与期間に関する制限は定められていない。

16. 各種コード

製品名	HOT（9桁） 番号	厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード	レセプト電算 コード
テルミサルタン錠 20mg 「ツルハラ」	125651201	2149042F1190	622565101
テルミサルタン錠 40mg 「ツルハラ」	125652901	2149042F2196	622565201
テルミサルタン錠 80mg 「ツルハラ」	125653601	2149042F3192	622565301

17. 診療報酬上の注意

本剤は保険診療上の後発医薬品である。

## X I. 文献

### 1. 引用文献

- 1) 第十七改正日本薬局方解説書（広川書店）C-3301(2016)
- 2) 鶴原製薬株式会社：安定性に関する資料（社内資料）
- 3) 鶴原製薬株式会社：溶出に関する資料（社内資料）
- 4) 鶴原製薬株式会社：生物学的同等性に関する資料（社内資料）

### 2. その他の参考文献

## X II. 参考資料

### 1. 主な外国での発売状況

該当しない

### 2. 海外における臨床支援情報

該当しない

## X III. 備考

### その他の関連資料

なし



製造販売元

**鶴原製薬株式会社**

大阪府池田市豊島北1丁目16番1号

文献請求先：鶴原製薬（株）医薬情報部